

鳥取県福祉研究学会創立 15 周年記念研究発表会 発表要旨等一覧

口述発表						○=発表者
分野	分野 No.	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
高齢 (施設系)	①	社会福祉法人あすなろ会 岩井あすなろ	田中 信次	「当たり前」の排便コントロール～自立支援介護理論の実践から～	高齢となると様々な理由で「便秘」となり、「下剤」を用いて排便を促す事がコントロールの手法として浸透しているが、調整がつかない場合におけるトラブルは利用者・職員双方にとって大きな負担である。竹内孝仁氏の「自立支援介護理論」を参考に、生活に密着したアプローチでの問題解決へ取り組んだ。	○田中 信次 村上 ちはる 河口 香代子 杉森 世志子 木原 美穂 寺垣 ひとみ 山本 つる江
	②	社会福祉法人あすなろ会 気高あすなろ	西村 規子	コンパクトで栄養強化した食事がもたらすものとは？	低栄養状態を改善するため、栄養強化した食事提供を行い、ご利用者の健康維持に繋がるよう取り組んだ。	○西村 規子 中原 新
	③	社会福祉法人敬仁会 介護老人福祉施設ル・ソラ リオン	永井 弘子	嚥下調整食を取り巻く課題に挑む～ソフト食・新ペースト食の導入～	従来の嚥下調整食そのものの見直しを行うことで、嚥下調整食が有する課題の解決に向けて取り組み、「安全で負担なく栄養が摂れ、且つおいしい食事」の提供の実現を目指すこととした。	○永井 弘子 大森 央絵
高齢 (在宅系)	①	社会福祉法人こうほうえん 小規模多機能型居宅介護 デイハウスじゅんぷう	河本 美紀	認知症高齢者の行方不明 時を防止する支援	認知症の進行に伴い、外出後に行方不明となる利用者T氏に対し、自宅周辺を職員と一緒に歩いて送迎ルートを確認する、行方不明になることを想定し、携帯GPSを用いた搜索訓練を行うなどの取り組みを行った結果、一定の成果が得られた。今回、本取り組みの経過と今後の展望について報告する。	○河本 美紀 森山 大介

分野	分野 No.	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
高齢 （在宅系）	②	広島大学大学院 社会科学研究所 マネジメント専攻	中島 佑輔	「“カット”されたもの」を繋ぐ：大山町ケーブルテレビの福祉番組制作に参加して	大山町ケーブルテレビによる福祉番組制作における収録・編集・放映の過程で、「糞便」に関する話題が“カット”されていたことに注目し、“カット”された理由について聴き取りを中心に調査した。「尊厳を護る」と一言で表せられない、様々な心境や状況のせめぎ合いの動態を明らかにした。	○中島 佑輔
	③	社会医療法人仁厚会 訪問看護リハビリテーションくらよし	東田 三重子	訪問看護と病棟看護連携による在宅支援～終末期患者の退院支援を通して～	住み慣れた場所で望む生活を送るためには、入院時から退院後の生活を考慮した継続療養・退院調整の支援の質向上が求められている。在宅療養希望のあるがん終末期患者事例を通して、支援を振り返ることが出来た。訪問看護師・病棟看護師の役割分担を明らかにし、カンファレンス等活用してよりスムーズな退院支援・在宅療養支援の提供に繋げる。	○東田 三重子 小谷 敬子
障がい児・者福祉	①	鳥取県精神保健福祉士会	西本 裕子	精神保健福祉士が抱える「苦労」の感じ方―経験による変化に注目したインタビュー調査からの考察―	精神保健福祉士の経験による「苦労」の感じ方の変化について、ベテラン精神保健福祉士へインタビュー調査を行い、筆者との比較を行った。そこから、ベテラン精神保健福祉士も「苦労」を抱えていることや、今後の自身の成長に繋がる気づきを得た。	○西本 裕子
	②	医療法人養和会 養和病院	前澤 由梨	「精神科訪問看護における統合失調症患者へのオープンダイアログ的支援の実践～リカバリー視点からの考察～」	精神科訪問看護でオープンダイアログの手法を用いた支援を行い、慢性期統合失調症患者へのオープンダイアログ的支援の有効性およびリカバリーとの関連について検証した。結果として、オープンダイアログ的支援により治療的効果が得られ、前向きな行動変容が多数認められリカバリーが上昇した。	○前澤 由梨 田住 広恵 矢田 朱美
児童福祉	①	社会福祉法人あすなろ会 白兔保育園	松浦 美保子	「共に感じよう 自然に学ぶ子どもの育ち」	本園は自然体験活動を取り入れた自然保育を行っている。地域の自然環境を活かした保育を充実させ、子どもの学びや成長について保護者と共有していくことを目的とし、コロナ禍で園と保護者が繋がりを深めていくためにはどのような工夫ができるのか発信の仕方について検討、実践を行った研究である。	○松浦 美保子 橋本 汐莉

分野	分野 No.	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
児童福祉	②	社会福祉法人こうほうえん 認定こども園キッズタウン さくら	岩田 愛希	人の行動を変える仕掛け 学～自発的に行動できる 環境構成～	生活習慣を身に付ける行動に意欲的に向かうことが難しい2歳児 クラスで、保育教諭がネガティブな声掛けになることも少なく ない。声掛けがなくても自発的に行動する姿を引き出すための 環境構成のひとつとして“仕掛け学”が有効ではないかと考え 効果を検証する。	○岩田 愛希 陶山 睦子 岩本 典子
	③	社会福祉法人敬仁会 上井保育園	戸崎 麻美	子どもの言葉を豊かに育 てる～「伝えたい」とい うコミュニケーション～	子どもの言葉を豊かに育てるために保育者に出来ることは何か を考え、実践し効果を検証する。	○戸崎 麻美 吉岡 麻弓
	④	社会医療法人仁厚会 大和保育園	松原 朱美	子どもに適切な睡眠を確 保するための試み～保護 者と保育者が一緒になっ て～	日本人の生活スタイルが夜型化して、日本の子どもの眠りの現 状はかなり深刻な問題である。本園の子どもたちの様子を見て いても、同じような現状があるのではないかと感じた。そこ で、子どもの睡眠習慣の現状を把握し、保護者と保育者が一緒 になって、子どもに適切な睡眠を提供する取り組みを考え、実 践と成果をまとめたものである。	○松原 朱美 原 一美
	⑤	社会福祉法人鳥取福祉会 よねさと保育園	山本 優子	子どもの気持ちに寄り添 う保育者のかかわり～Y児 との愛着関係を育みなが ら～	・乳児の成長過程において愛着形成がどのような役割を果たす のか保育者のかかわり方や保育者同士、保護者との連携につい て検討する。 ・0歳児が安心して過ごすために、Y児の成長に焦点をおき保育 実践記録やエピソード記録をもとに、Y児の変容を探ってい く。	○山本 優子
	⑥	学校法人大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科	松本 つかさ	「学校活動の抑制が精神 面にあたえる影響につい ての情報の紹介」～新型 コロナウイルス感染対策 が引き起こす子どもへの 状況について～	感染対策による休校日数の発生による身体面・精神面の不規則 化や不活発化から生じる睡眠リズムに着目することで子どもの 育成への影響を考え、今後の作業療法士としての介入をより有 効化できるための指標とする。	○松本 つかさ 金本 侑里香 浜本 晃太郎 山根 里桜

分野	分野 No.	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
児童福祉	⑦	学校法人大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科	東田 希彩	鳥取市の小学校における 新型コロナウイルス感染 対策としての簡易給食導 入の実態調査	鳥取市の小学校における新型コロナウイルス感染対策としての 簡易給食導入により、児童に必要な栄養摂取が低下しているの ではないかという仮説をたて、実態調査を行った。	○東田 希彩 坂手 虹太 長尾 響 藤田 颯司 水本 篤志
	⑧	学校法人大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科	鈴木 雄介	「幼少期における第三者 との関わり度合いの減少 が、青年期の情緒に影響 を生じる乱れの考察」	コロナ対策による集団や他者との交流経験の減少により、子供 に発生する影響について注目し、「コロナ禍で制限される学校 の関わり」による精神面への影響因子をまとめ、作業療法士の 関わりの必要性について検証する。	○鈴木 雄介 安次富 寛太 伊藤 寧音 國森 雅月 杉谷 美穂
	⑨	学校法人大阪滋慶学園 鳥取市医療看護専門学校 作業療法士学科	下雅意 朱子	新型コロナ対策が子ども たちの栄養状態に引き起 こす状況に対する調査研 究	われわれはコロナ禍による自宅待機時間の増加により、菓子類 摂取量の増加を引き起こし、栄養バランスの偏りが起こり得る と予測した。そこで、食事と栄養バランスに注目し、子どもの 育成を阻害していると予測される要因について整理し、検証し た。	○下雅意 朱子 山添 莉奈 大山 駿太 木村 翔
地域福祉	①	社会福祉法人鳥取こども学 園	竹本 智恵	地域で子育て文化を創る ～地域食堂（おたべ食 堂）の取り組みについて ～	・実施目的 ・運営内容、体制 ・評価、課題、今後の展開	○竹本 智恵
	②	社会福祉法人琴浦町社会福 祉協議会	森下 大樹	「琴浦町を支え合える福 祉のまちに」～集落への 聞きとりから見えてきた 福祉課題と今後について ～	令和2～3年度にかけ琴浦町、全集落を対象に行った集落への 聞きとり訪問の結果と今後の地域福祉推進について	○森下 大樹

分野	分野 No.	研究代表者 所属団体等	発表者 氏名	発表テーマ	発表要旨	研究者氏名
地域福祉	③	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校	山根 浩一郎	本校における福祉教育の 取り組みと生徒の福祉的 素養の醸成について	本校で近年行なっているカリキュラムで、福祉教育をベースに して学校全体で取り組んでいる道徳教育・人権教育の実践例と その分析を報告する。	○山根 浩一郎
	④	鳥取大学大学院 持続性社会創生科学研究科 地域学専攻	森下 昇	当事者の「語り」（ナラ ティブ）が拓く地域共生 の可能性～「語り・学 び・de愛プロジェクト」 の実践報告～	高齢者や障がい者等の福祉サービスを必要とする人々（当事 者）をはじめ、すべての住民が自分らしく活躍できる「地域共 生社会」の実現に向けては、当事者の障がいや病気に対する理 解を促進し、生活課題を「我が事」として受け止める地域づく りが不可欠である。本研究はそのための福祉学習に「語り」と 「対話」によるナラティブ・アプローチを応用し、当事者理解 とともに当事者の負担軽減やエンパワメントを目指すものであ る。	○森下 昇 西村 実来 堀江 琉真 山根 昇馬 郭 瑠儀 竹内 良一 岡田 幸子 西村 公雄 保木本 悠二 太田 百合 藤田 亮二 山本 誠 竹川 俊夫
	⑤	鳥取市民生児童委員協議会	松田 吉正	鳥取市民生委員・児童委 員の活動強化方策	鳥取市民児協では、個人情報保護法施行により生じている、支 援を必要とする方の住民情報の収集環境の変化とその対応方策 や、団体の人員構成の変化に対応した活動強化を課題として取 り組んでいるので、これを報告発表する。	○松田 吉正
その他社会福祉領域	①	NPO法人あいおらいと	田中 進	「第三者評価を活用した 福祉サービスの質の向上 をめざした取り組み」	福祉サービス第三者評価は、「福祉サービスの質の向上」など を目的としている。今回、第三者評価機関である私たちあいお らいとが第三者評価を行うなかで成果や課題について報告す る。	○田中 進
	②	社会福祉法人あすなる会 岩井あすなる	澤 潤一	オンライン会議システム の導入―働き方に変革を ―	新型コロナウイルス感染症蔓延により、介護だけでなく、全職 種の働き方が見直されたことをきっかけに、介護現場に於いて 職員の負担を軽減することを目的としてオンラインによる会議 参加ができないかと考え、実践した。	○澤 潤一